

## 【参考】報告概要

### <ジェンダー>

(1) 「主婦パート」は変わったか 労働調査協議会 主任調査研究員 後藤嘉代  
現在においても、“主婦パート”は既婚女性の中心的な働き方である。

本報告では、「2022年非正規雇用調査」の“主婦パート”について、契約・派遣等で働く既婚女性との比較から、仕事に対する意識や、労働法、社会保険制度に対する考え方、家族的責任の負荷など、その特徴を明らかにし、従来の“主婦パート”像からの変化を確認する。また、“主婦パート”という働き方を選択する背景として、性別役割分業意識にも注目する。

(2) 非正規雇用の底辺 ～非正規<女性稼ぎ主>世帯の困難～

昭和女子大学 名誉教授 森ます美

1980年代以降、パートタイマーに代表される非正規雇用は、「主婦パート」という言葉で象徴されてきたように、性別役割分業家族の妻が被扶養の「特典」を享受できる範囲内で就業する働き方として把握されてきた。今日、非正規雇用は、女性が7割を占める点では変わりはないものの、日本社会の構造変化のなかで、女性非正規雇用の内実は「主婦パート」では括れないものへと変化しつつある。今回の「2022年非正規雇用調査」でみえてきたのは、非正規雇用の底辺に位置する「非正規<女性稼ぎ主>世帯」の生活困難である。

### <法制>

(3) ディーセントな生活を支える社会保障へ ～コロナ禍を転機に～

東洋大学法学部 教授 上田真理

コロナ禍の生活状況を、「2022年非正規雇用調査」およびインタビューから確認し、非正規雇用労働者にかかわる社会保障法の課題と解決方向を示す。さらに、労働組合の関与が必要な局面を例示し、以下の3点について社会保障にかかわる、労働組合への期待・課題を提示する。

- 1 コロナ禍の生活状況—「2022年非正規雇用調査」・インタビューより
- 2 非正規雇用労働者の社会保障の課題
- 3 労働組合の関与・支援—①仕事の継続にかかわる社会保障の課題、②社会保障制度の利用を促進する情報提供・援助義務

#### (4) 非正規雇用労働者が望むポストコロナの労働法制

南山大学法学部 教授 緒方桂子

正規雇用労働者がよりよい環境で働くために必要な法制度や労働組合へ期待されることについて、非正規雇用労働者のニーズや実態を踏まえて検討し、提示したい。連合総研「2022年非正規雇用調査」のうち、「必要だと思う労働法」（7つ以内選択）への回答を手がかりに、「ワークライフバランス」（労働と私生活との両立）、「最低労働条件保障」、「無期転換ルール」、「同一労働同一賃金」ルールの4項目について法政策の展望を示すことにする。

### <労働組合>

#### (5) 非正規雇用労働者の組織化の新地平～UアボイダーとUヘイターに注目して～

武庫川女子大学経営学部教授 本田一成

2000年以降、非正社員の基幹労働力化が進展し正社員との待遇格差が著しくなったこともあり、労組では組織化への取り組みが加速した。だが、依然として組織化を困難にする要因が多く、その実績は芳しいわけではない。また組織化に成功した事例でも、組織体制や運営に関する課題は山積している。この報告では、非正社員の雇用の特質を踏まえて、労組に対する低評価者の実態や意識に関する調査結果に基づき、非正社員の組織化について再検討し、今後の組織化について展望する。

#### (6) 「必ずそばにいる存在」になるために ～労働組合の課題～

連合本部 総務・人財局長(前フェアワーク推進センター局長) 久保啓子

連合（労働組合）は、これまでも、非正規雇用で働く仲間を守ることにつながる運動を展開してきた。職場で非正規雇用で働く仲間の課題を解決するためには、なによりも組織化が重要であることは、取り組みの成果からも明確である。労働組合が、「すべての働く仲間を守る存在」「必ずそばにいる存在」となるために、連合（労働組合）の社会的価値を共有し、今後の運動の展開を探求する。

以上